

**平沼騏一郎** 官僚，政治家。司法界を支配後，国家主義団体を組織，一瞬の首相も，<敗戦>で，A級戦犯に。

ひらぬまきいちろう

大政奉還・・1867 = 美作国(岡山県)津山で，藩士平沼晋の次男に生まれる。

明治維新・・1868 = 1歳：

幼時に藩儒につき，

明治6年政変 1873 = 6歳：

のち上京して，宇田川興斎・箕作秋坪に漢学・英学・算術を学び，

三つの反乱・1876 = 9歳：

大久保暗殺・1878 = 11歳：東京大学予備門に入学，

明治14年政変 1881 = 14歳：

岩倉具視没・1883 = 16歳：卒業。東京大学法学部に進み，この年事件で一時退学処分を受けるも，

内閣発足・・1885 = 18歳：

初の対等条約 1888 = 21歳：\_卒業して，司法省に入る。

帝国憲法発布 1889 = 22歳：

以後，累進し，

日清戦争始・1894 = 27歳：

Bushidou・・1899 = 32歳：東京控訴院検事となる。

以後，検事畑を進み，

日比谷公園・1903 = 36歳：

日露戦争終・1905 = 38歳：大審院検事，

満鉄発足・・1906 = 39歳：民刑局長を兼任となる。

韓国反日暴動 1907 = 40歳：法律取調委員として英独仏に派遣される。

韓国併合・・1910 = 43歳：<大逆事件>では，主任検事をつとめて，社会主義抑圧のための<暗黒裁判>を指揮。

大逆事件判決 1911 = 44歳：\_第2次西園寺内閣の司法次官，

明治天皇没・1912 = 45歳：\*検事総長となり，以後10年間つとめる。

第一次大戦始 1914 = 47歳：<シーメンス事件>，

21ヶ条要求・1915 = 48歳：東洋の道徳学術の究明・振興のため同志と{無窮会}を創立。<大浦内相事件>，

本格政党内閣 1918 = 51歳：<八幡製鉄所事件>などで，腕を振るった。

▲ルビロ条約・1919 = 52歳：\_臨時法制審議会副総裁として，立法・法改正にも参画。

原敬首相暗殺 1921 = 54歳：\_大審院長となるなど，司法界きっての実力を築き，

関東大震災・1923 = 56歳：<関東大震災>直後の第2次山本内閣に法相として入閣，<虎ノ門事件>で内閣総辞職となり，

護憲三派圧勝 1924 = 57歳：\_退官し貴院議員，ついで枢密顧問官に任ぜられたが，折からの社会運動の噴出と政党政治の展開の中に，西洋物質文明の害毒を見，復古的の日本主義による国民教化を目指して<国本社>を創始，官界を中心にその影響力を広げていった。他に日大総長も兼任。

治安維持法・1925 = 58歳：枢府副議長になり，

\_台湾銀行救済問題・ロンドン軍縮条約批准問題などで時の政党内閣を苦しめ，

海軍軍縮条約 1930 = 63歳：

満州事変・・1931 = 64歳：<満州事変>後，

\_政党否認の風潮の高まりの中では，政変のつど，軍部右翼の一角から首相候補に擬せられたが，元老西園寺らにその極端な右傾を警戒されて実らず，

帝人疑獄事件 1934 = 67歳：\_枢府議長昇格の機も逸した。こうした疎外に対する不満から帝人事件・国体明徴運動を背後から指揮して倒閣に結びつけたといわれ，その隠然たる存在は政界に大きな影を落とし，

二二六事件・1936 = 69歳：\_二・二六事件後，枢府議長に昇格，

日中戦争始・1937 = 70歳：

第二次大戦始 1939 = 72歳：\*内閣を組織。在任中，<総親和>を掛声に国民精神総動員を強化したが，独ソ不可侵条約締結の報に接し<複雑怪奇>の迷句を残して退陣。

大政翼賛会・1940 = 73歳：第2次近衛内閣の国務相，内相。

日米開戦・・1941 = 74歳：

敗戦・・・1945 = 78歳：\*再び枢府議長をつとめ，ポツダム宣言受諾をめぐるは無条件降伏反対の立場をとった。

\_敗戦後，A級戦犯として極東軍事裁判で終身刑を宣告され，

極東裁判判決・1948 = 81歳：

メテ-事件・1952 = 85歳：\_病気のため仮出所後，没した。

「平沼騏一郎回顧録」。